

工事支える「脇役の誇り」 姫路の仮設資材リース業・マルイチ 県内外の大型建設に足場供給

2025/12/14 06:00

姫路



建設中のひめじスーパーアリーナ＝9月2日、姫路市西延末（ドローンで撮影）



姫路市の手柄山平和公園で整備が進む市立ひめじスーパーアリーナ（愛称・大和工業アリーナ姫路）。建設中の体育館や屋内プールを囲むように大量の足場が組まれているが、聞けば、同市青山のリース業「マルイチ」の資材という。気になって取材すると、姫路城の「平成の大修理」やジーライオンアリーナ神戸（神戸市中央区）など県内外の大規模工事にも関わっていた。（有島弘記）

■業界5位、総売上高100億円超

「業界自体がなかったんですよ」。1977年設立の同社について廣瀬一敏副社長が教えてくれた。創立以前はゼネコン各社が自前で仮設資材を持っていたが、資材の多品目化によって抱えきれなくなり、レンタル市場が生まれたという。

同社は姫路市打越の営業本部周辺に複数の機材センターを構えている。「マルイチ村」と呼ばれるほ

どの規模で、足場のほかに防音シートや敷き鉄板、仮囲いなど市外の自社センターを含めて業界トップクラスの1500種類、15万トンの資材を保管する。4トントラックに積み込んだ場合、約3万7千台分にもなるという。車体を連ねると「東京から鹿児島（約1400キロ）までつながる」（廣瀬副社長）と聞けば、驚きだ。

グループ内に運輸会社を抱えるため、発注に応じたタイムリーな輸送が可能。レンタルを終えた機材の点検や整備を同業他社のように外注せず、自社で行うことでコスト面でも優位性を確保しているという。

さまざまな現場に携わるが、歴史的建造物では姫路城のほかに岡山城（岡山市）の「令和の大改修」に仮設資材を供給。大型施設ではJR姫路駅前のホテルモントレ姫路やJR大阪駅前のヨドバシ梅田タワー、現在は神戸・三宮再整備の中核をなす高層ツインタワーの1期ビル工事に関わっているという。

同社は専門職の「足場工」約200人と専属契約を結び、年間約1万7千棟の住宅現場も手がける。総売上高は100億円を超え業界第5位。自己資本比率は「超優良企業」の目安とされる70%を超える。

そびえ立つ足場も、建物が完成すれば姿を消す。形に残る仕事ではないが、小林雅也社長は「姫路を中心に主要物件に携わられている。それこそが脇役の誇り」と自負をのぞかせる。